

平成 28 年度 学校評価報告（実施結果）

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①各教科・科目の学習到達目標を設定し、生徒学力調査等で定着度の検証を行う。</p> <p>②生徒の学習意欲や探究心を高める組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>③学校行事を一層充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>②ICT利活用及びアクティブ・ラーニング型の授業の充実を図るとともに研修会を実施する。</p> <p>③生徒の主体的な関わりによる学校行事の一層の活性化を目指す。</p>	<p>②すべての教科でICT利活用及びアクティブ・ラーニング型の授業の公開をすすめ、研究授業を実施する。</p> <p>③生徒の委員や運営希望者等による学校行事への積極的な参加を求め、行事運営に携わらせる。</p>	<p>②生徒による授業評価の項目1「教材が工夫されるなどして、取り組みやすい授業である。」または項目4「授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある。」における3、4の回答率が前年(3.15、2.91)より多くなったか。</p> <p>③行事後のアンケート等ではどの程度の満足度であったか。</p>	<p>年度当初に、教育活動に利活用できるICTの研究やICTを利活用した授業方法の研究紹介およびICT導入計画の提案などを目的としたICT利活用研究プロジェクトチームを立ち上げた。</p> <p>第1回生徒による授業評価の結果分析を踏まえた、各教科の課題解決に向けた研究授業を11月にアクティブ・ラーニングの視点に基づく授業をテーマとして教育活動公開を行った。その結果、「授業評価」の項目1は1回目が3.23、2回目が3.29、項目4は1回目が3.16、2回目が3.18といずれも昨年度の値を上回った。</p>	<p>ICTの利活用やアクティブ・ラーニングの手法の有用性は十分に理解できたので、さらなる利活用の研究や手法の研修を進めて行きたい。また、毎年11月に行っている研究授業は上記のICT利活用とアクティブ・ラーニングの視点に基づく授業をテーマとして、各教科で課題解決に向けた研究授業を実施し、中学校との交流を深め、互いに刺激を受け合い授業改善を図りたい。</p> <p>生徒による授業評価の結果分析について、教員個々より改善レポートが提出されているが、教科として課題解決のレポート作成を推し進めたい。</p>	<p>魅力と特色ある県立高校づくりのアンケート調査では、生徒の学校に関する満足度も高く、3年間の学力向上等の満足度も高くなっている。充実した学習活動が推進されている。今後の課題は、より一層の授業改善の取組である。組織的に取り組んで課題解決に努めて欲しい。</p>	<p>アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業への基本的な取組を進め、生徒による授業評価でも評価が向上するなど、一定の成果を得ることができた。</p> <p>今後は、教員個人の取組から、教科単位や学年単位での組織的な取組を推進することが課題である。</p>	<p>アクティブ・ラーニングの視点による授業改善を教科、学校全体で行うために、県内外の先進的な実践に係る情報収集を行い、研修を通して、共有を図る。</p>
2	生徒指導・支援	<p>①安全・安心な学校生活に向けた生活習慣の定着を図る。</p> <p>②部活動や生徒会活動等を一層充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図るとともに、加入率の向上を図る。</p>	<p>①日常生活のルールやマナーの向上と、時間にゆとりのある生活の定着を図る。</p> <p>②部活動に参加する生徒を増やし、活動内容の充実を図る。</p>	<p>①朝の8:30登校を目指し、全校・学年集会等で登下校の指導をする。</p> <p>②部活動において質の高い技術指導を提供することで上位を目指す生徒の意欲を高める。また加入率の向上につながる情報発信をする。</p>	<p>①遅刻者数の統計が対前年度比で減少したか。</p> <p>②部活動において例年通りに上位進出を果たす部があったか。また、対前年度比で、加入率は増加したか。</p>	<p>①昨年度に比べ13.5%遅刻者数が減少した。(H27 4,626人、H28 4,001人)</p> <p>②全国大会に進出した部が2部、関東大会に進出した部が4部あり、例年並みの上位進出数であった。部活動加入率は横ばいであるが、定着率はやや改善されたと見ている。</p>	<p>①8:40ぎりぎりの登校が多いので余裕を持った登校を促したい。</p> <p>②3年生の2学期後半からの遅刻の指導に力を入れたい。</p> <p>③部活動加入率の向上には大会での実績とともに底辺の拡大が必要であり、未経験者でも継続可能な部活動のあり方を今後も探る必要がある。また、入学時のオリエンテーションにとどまらず常に部活動への勧誘を続け、そのための情報発信を強める。</p>	<p>生徒の雰囲気が良い方向に変化している。基本的な生活習慣の確立、部活動での生徒の活躍等、充実した学校生活を送ることができ健全な学校づくりが進んでいると言える。</p>	<p>遅刻者数の減少、規範意識の向上など、成果をあげることができた。部活動参加者の定着率も改善している。今後は部活動加入率の一層の向上を図り、生徒活動の支援を進めることが課題である。</p>	<p>余裕を持って学校生活を送るよう生徒に指導し続け、具体的な数値目標等を設定して遅刻の減少を図る。</p> <p>各部活動への教員の指導・支援を強化することで、部活動参加者の定着率を向上させる。</p>
3	進路指導・支援	<p>1年次からの計画的なキャリア教育を進めることで、生徒一人ひとりがより高い意欲を持ち、進路実現をめざすように指導・支援を充実させる。</p>	<p>①面談や進路ガイダンスなどをおし、進路意識の向上を図る。</p> <p>②1年次に「総合的な学習の時間」を中心に、コミュニケーション力の育成を行う。</p>	<p>①進路ガイダンスや職業理解ガイダンス、面談など生徒一人ひとりに応じた支援や情報の提供を行う。</p> <p>②「総合的な学習の時間」に設定された、グループワークや発表を計画的に行う。</p>	<p>①生徒へのアンケートで、進路ガイダンスなどが、進路意識の向上につながったという回答が増加したか。</p> <p>②「総合的な学習の時間」の生徒の振り返りの中で、コミュニケーション能力が向上したという回答が増加したか。</p>	<p>①意識が向上したと答えた生徒は85%であった。</p> <p>②コミュニケーション能力が向上したと答えた生徒は86%であった。</p>	<p>①進路ガイダンスに参加する学校をさらに開拓し、内容の充実を図る。また、保護者対象の説明会では、学費についての説明を加えるなどし、情報発信に努める。</p> <p>②コミュニケーション力がグループワークによって身についたと答えた生徒が多かった。来年度も積極的に取り入れたい。</p>	<p>今後はさらに、進路情報の提供に関して組織的な取組を推進し、情報提供を充実させて欲しい。それにより、一層生徒と保護者の進路に関するニーズに応じていくようにして欲しい。</p>	<p>生徒の進路に関する意識の向上では、一定の成果が見られた。「総合的な学習の時間」をさらに充実させ、キャリア意識の向上を図っていく。</p>	<p>若手を中心にした教員への研修等をさらに充実させ、生徒・保護者への的確な進路情報の提供を行う。他校の実践例等を研究し、キャリア教育の組立の改善を図る。</p>
4	地域等との協働	<p>地域との様々な協働を推進し、地域唯一の高等学校として、共に発展する学校づくりを進める。</p>	<p>地域から信頼される学校づくりを推進し、生徒・教職員が地域との協働を一層推進する。</p>	<p>地元自治体、町内会、学校等の行事に生徒が参加・協力し、地域との交流を一層深める。交流後は効果測定を行い、次回以降の協働活動の参考とする。</p>	<p>地域の諸行事に生徒・教職員が参加して、地域と連携・交流を深めることができたかについて、アンケート調査を実施し、肯定的評価を得ることができたか。</p>	<p>区民祭りをはじめ地域行事に部活動を中心に参加している。また地域の公園清掃に委員会を中心に参加して交流を深めた。地域行事等の参加率は1,2年生で23.2%である。地域貢献に対する生徒の肯定的評価の数値は、つつじ公園清掃が78%、その他の行事が90%と高くなっている。</p>	<p>地域行事等の参加についての課題として、情報提供と日程の問題がある。これについては、生徒への適切な情報提供方法を工夫する。また、地域交流に対する生徒の意識に課題があるので、意識を高める方法を考える必要がある。地域の本校に対する意見も聴取する必要がある。</p>	<p>地域の小中学校とより一層の連携を図り、教育活動を充実したものにして欲しい。部活動に入っていないくても、地域などコミュニティーに関わることで人間の成長に役立つので、生徒への情報提供等の働きかけを推進して欲しい。</p>	<p>地域こども会議の取組やあいさつ運動等、生徒が地域と関わる機会が充実した。今後は地域連携に関わる生徒をさらに増やす取組が求められる。</p>	<p>地域の諸活動・行事に関する生徒への情報提供の方法を改善し、地域の中で生き、地域に貢献する意識の醸成を図る。</p>

5	学校管理 学校運営	安全・安心な教育環境の整備と教育活動の充実・改善に努め、事故のない、信頼される学校づくりを進める。	安全・安心な教育環境の整備と教育活動の充実・改善に努め、事故のない信頼される学校づくりを進める。	① 快適な学習環境維持のための清掃活動を徹底し、ごみの減量及び分別を徹底する。 ② 地域と連携した防災訓練を実施し、防災への理解を深める。	① 清掃活動が活発に行われ、生徒の意識の向上があったか。 ② 防災訓練が計画的に実施され、生徒の防災の意識の向上があったか。	通常の清掃時及び文化祭などの行事において、ごみの分別を励行し、資源ごみの有効利用に努めた。一般廃棄物量は前年度比94%であった。 防災教育では生徒全員が、DIGの研修、シェイクアウト訓練を行った。また、宮前消防署と協力し地域連携の一環として中有馬保育園の園児が来校し、地震体験・煙体験を行った。	清掃の励行やごみの分別、減量のさらなる徹底など、校内美化を一層推進していく。また、節電・節水の呼びかけも含め、美化委員会活動の活性化につなげていきたい。 来年度も、体験型の防災教育を地域と連携して推進していきたい。	防災教育面で地域との連携をさらに充実させ、高校生の防災面における貢献の意識を、より高めることが必要である。 より良い学校環境づくりのためにより清掃・節電・節水を今後も推進して欲しい。	地域清掃への定期的な参加が定着し、地域からの評価を受けた。今後は地域自治会等との合同による防災訓練等を企画し、地域防災への貢献に関する取組を充実させる。	今までの防災教育の課題を整理し、さらに地域の諸機関との連携を推進する取組を行っていく。清掃・節電・節水等に関する取組を生徒会との連携により推進する。
---	--------------	---	--	--	---	--	--	--	--	--